

## 2020 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [ 追手門学院中・高等学校 ] 担当教諭名 [ 田橋 知直 ] ( 1年 A・B・C組 67名 )

相手国・地域 [ インド ]

海外学校名 [ Christ Nagar Higher Secondary School ] 担当教諭名 [ Thomas Mani ]

### ■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	社会	南アジア	1
	理科	SDGs	1
	探究	SDGs	3
	課外活動	実行委員会活動(online 会議、壁画制作)	22

### ■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	Every situation in life is temporary and unity in diversity is the key to beautiful world
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	コロナ禍において世界中が苦しんでいるが、様々な考えを持った世界の人たちがつながり、励まし合い、考えを共有することがこの困難を乗り越えるための大きな力となる。



### ■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
普段はオンラインでつながっており、「壁画」という、実際に触れたり、匂ったりすることのできる実物が、6000km という物理的距離を超えて往来することで「つながり」を身近に感じる事ができた。さらに、それによって 6000km 向こうで起きていることに関心を持つようになった。	担当者が年間の見通しをうまく立てられずに、予定がかなり遅れこんでしまった。また、見通しをもって会議設定をすればより充実した学習交流ができたのではないかと考える。

### ■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
世界で起こっている問題に対しての感度が変わった。実際に、相手校のある州での小さな出来事をニュースでキャッチすることができた。	英語運用能力や ICT 活用はもちろんのこと、礼儀作法などの人間性においても、インドの人たち(学生・生徒・教員)は優れていることがわかった。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	7月	Zoom を使って、一人一人の自己紹介と、アイスブレイクのためのゲームをした。	慣れない Zoom だが、興奮していた。こちらの生徒はその興奮が幼さに見える、相手校は落ち着いて対応していたのが印象的であった。	課外活動 2
共有 テーマ学習	7月 ～ 10月	・SDGs を考える授業(日本:フィジカル、インド:オンライン) ・COVID-19 調べ学習とプレゼンテーション作成・交流。	・自分たちの目の前で起こっている授業と同じものがインドでも実施されることに感動していた。 ・英語でのプレゼンテーションは、普段の「日本人⇒日本人」のものではなく、実際に「英語でしか理解し合えない」相手がいることで真剣度が大きく向上した。	社会1 理科1 探究2
融合 メッセージ作成	11月	先に日本側からデザインのたたき台を提示し、それをもとに Zoom でオンラインミーティングを持ち、描くべき内容やメッセージの案を出し合った。	生のやりとりなので、英語という面ではかなり苦勞し、ちょっとした挫折も味わいながら、考えていることが目の前で形になっていくことに対しては満足していた。	課外活動 4
創造 壁画制作	12月	放課後に実行委員以外にも、学年で絵の好きな・得意な生徒が集まって、みんなで協力して作成した。	細かなところでは意見の食い違いがあり、雰囲気重たくなることもあったが、相手が受け取った時にどう感じるかをベースに意見調整をして、最後は一致して取り組むことができた。	課外活動 16
評価 振り返り 自己評価	3月	・壁画鑑賞 ・Google Form にてアンケート	相手校のクオリティの高さに言葉を失ったあと、歓声があがった。中には匂いをかいでいる生徒もおり、五感で感じようとしている姿が見て取れた。	探究1

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	4	事前学習から完成壁画鑑賞会に至るまで、日本ではないアジアの国がいかに優秀であるかを考えることができた。また、本筋とは離れるが、文化交流において、つながりのできたインドの仲間が紹介してくれる文化の一面に深い関心を示していた。自国に関しても、文化紹介や壁画デザインを考える際に普段とは違う視点で見つめなおすことができた。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	COVID-19 をめぐる事前学習内容の交換において、割と日印の考え方や対策が似通っているところもあり、どちらかという自身の思考の枠組みを疑うような取り組みはできなかった。
主体的に考え行動する力	2	どうしても、教員側からの投げかけを待つ姿勢を改善させることができなかった。担当者と学年団の連携がうまく切り切れなかったところは学校側が反省すべき点である。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	5	オンラインでは、つたないながらもなんとか伝えようと原稿を用意し、ガチガチになりながらも何とか画面を通して相手に想いを届けようとした。自分ががんばれば、相手もその分ががんばって理解しようと努めてくれることがわかった。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	メッセージ・デザイン作成に関しては、オンライン上のライブでのやりとりが活発に行われた。ただし、英語に表現することができずに想いを伝えきらなかったこと、壁画制作が思うように進まず、若干の妥協を残した状態で完成・発送をしてしまった。